

# ドイツにおける弓道の実態調査

加 賀 勝

## はじめに

日本の武道の一つである弓道が、ヨーロッパで広く知られるようになったのは、1940年代末のことである。ドイツ人哲学者のオイゲン・ヘリゲル（Eugen Herrigel）の著書「弓と禅」（Zen in der Kunst des Bogenschiesens）により、日本の弓道は禅とともに興味ある存在として、主に観念的に知られていた。

実際に技術をとまなう武道としての広まりは、1960年代に入ってからといえる。それまでは、組織化されていない小人数が各地で愛好グループを作り、技術的にも試行錯誤の段階が続いていた。1960年代半ばからヨーロッパ各地のグループが私的に日本人弓道家を招聘して技術指導を受けるようなことが始められた。1960年代末には全日本弓道連盟から初めて公的な形での講師派遣が実施されたが、継続的な指導には至らない状態であった。しかしながら、日本人弓道家の中には幾度かの指導によりヨーロッパ弓道家達の情熱に感心し、私的に渡欧を繰り返して指導する者が現われ、いわば民間の努力が起爆剤となってヨーロッパにおける弓道はその人口の上でも技術レベルの上でも急激な発展をみせた。

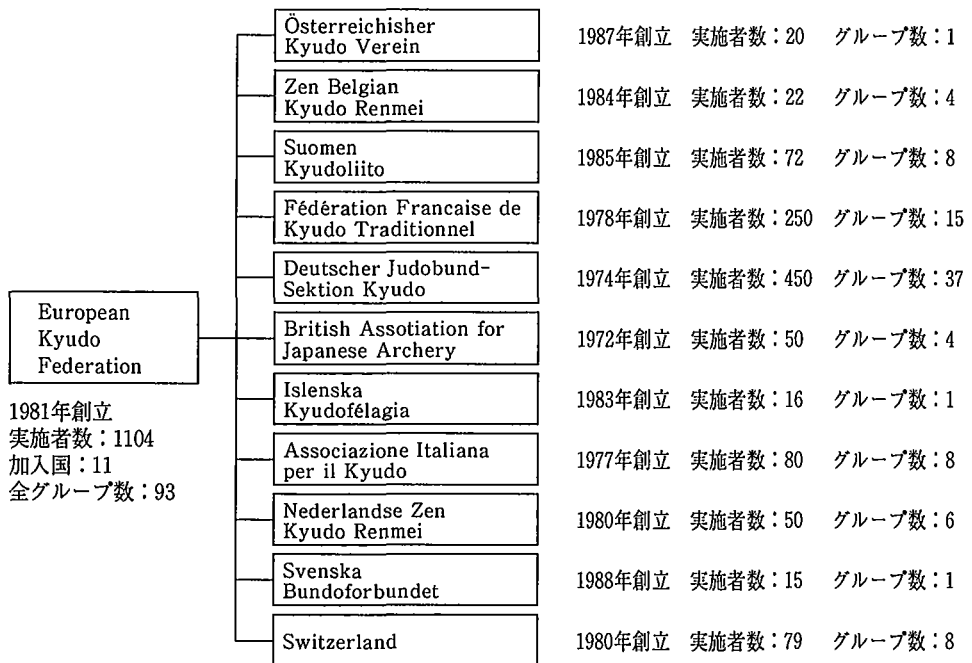


図1. ヨーロッパ弓道連盟の組織図

1973年には、ヨーロッパで最初の弓道連盟が設立されるに至った。その当時の加入国は、イギリス・フランス・スウェーデン・ドイツの四か国であった。ヨーロッパでのこのような発展により1980年には、旧西ドイツのハンブルクで全日本弓道連盟による第一回海外セミナーが実施されるに至った。このセミナーには、イギリス・フランス・ドイツ・オランダ・イタリア・スイスの6か国が参加し、セミナー期間中に全日本弓道連盟の下部組織としてのヨーロッパ弓道連盟規約が批准された。

これを受けて1981年には、現在のヨーロッパ弓道連盟が正式に発足するに至ったのである。1991年現在のところヨーロッパ弓道連盟の加入国は、イギリス・フランス・ドイツ・オランダ・イタリア・スイス・アイスランド・オーストリア・ベルギー・フィンランド・スウェーデンの11か国となっている。図1には、各国の弓道連盟創立年や実施者数などを示している。さらに、数年中にはスペインなど数か国の加入が見込まれており、欧州の自由化によって旧東側諸国にも弓道は実施されつつあり、今後ますますの発展が予想される。

そのような中であって、ここで取り上げるドイツ弓道連盟はヨーロッパ弓道連盟の中心的存在と言うことが出来る。その会員数は全ヨーロッパの会員の40%を占め、技術的レベルも群を抜いた存在となっている。さらに、弓道連盟としての組織的活動も活発であり、フィンランド・オーストラリア・デンマークの弓道グループの設立を促すなどの指導的役割をも担っている。しかしながら、国内での実施状況などについての詳しい報告は現在のところなされていない状態である。弓道のような全く未知の運動種目が、どのようにドイツという国で取り入れられ発展して行くのか、さらにどのような問題を抱えながら発展していつているのかを知ることは非常に興味深いと考えるものである。

表1. 調査対象

クラブ名称	州名	都市名	創立年	代表者名	アンケート回答者名	調査年月日
Budo-Club	Baden	Karlsruhe	1978	Hans Zabochnik		
S.V.O	Bayern	Kaufbeuren	1988	Böhm Kurt	Bohm Kurt	1990.5.1
TSV弓道	Bayern	Weilheim	1981	Peter Wankel	Hans	1990.5.8
Isar-Dojo	Bayern	Markt Schwaben		Jurgen Tenschert	Alex Gross	1990.5.27
Kyudo-Club Berlin	Berlin	Berlin	1983	Siegfried Gromulies	Thomas Baer	1990.6.15
Kyudo-Club Berlin	Berlin	Berlin	1974	Hans Gundermann	Klaus Stainmann	1990.6.20
飛雲館(Alster Dojo)	Hamburg	Hamburg	1971	Feliks Hoff	Sven Zimmerman	1990.9.5
Wiedbach-schule	Hessen	Mainz		Rolf Lindemaier		
	Hessen	Frankfurt		Bernd Luchner		
Leine-Dojo	Niedersachsen	Göttingen	1978	Horst Neubauer	Rolf Knauf	1990.5.19
Silbersee-Dojo	Niedersachsen	Hasbergen		Michael Ende		
Delme Kyudo Dojo	Niedersachsen	Delmenhorst		Ulrich Meinel		
Innerste Dojo	Niedersachsen	Hildesheim	1984	Hans Hasselman	Hans Hasselman	1990.5.19
Judo-Club Achtermaer	Niedersachsen	Oldenburg	1990	Norbert Kleinfeld		
KraftSportverein	Niedersachsen	Lüneburg		Volker Ziegeler		
Kaserne der Bereitschaftspolizei	Niedersachsen	Hannover		Eva Maria Mentz		
	Nordrhein-Westfalen	Köln		Gunter Ismer		
	Rheinland-Pfalz	Bad Dürkheim		Fritz Eicher		
Akatsuki	Schleswig-Holstein	Kiel	1981	Gunter Isleib	Gunter Isleib	1990.5.11
Lubecker Judo-Club	Schleswig-Holstein	Lübeck		Uwe Steinhauer		
Budo-Zentrum	Württemberg	Rottweil		Fritz Gabler		

## 方 法

調査は、主に直接面接法によった。調査対象は、旧西ドイツ国内の弓道グループの代表者もしくは技術面の指導的役割を果たす者1名とした。面接調査の期間は、1990年5月から1990年9月までであり、ドイツ国内の弓道講習会開催時に実施した。直接面接できなかったグループについても各弓道組織の発行するパンフレットなどから出来る限りの資料を得た。調査対象となったグループの名称・地名・調査対象者名などは、表1に示した通りである。

また調査項目は、以下の7項目である。

1. 実施状況（練習の頻度・時間・量）
2. 会員（会員の数・構成、経験年数などの技術程度）
3. 指導者（指導者の数・技術程度）
4. 施設・用具（利用施設の種類・大きさ）
5. クラブ組織（対外的位置、国内組織）
6. 日本弓道界への要望
7. 発展上の問題点

## 結 果

面接調査や資料収集により得られた調査結果のうち、1.実施状況、2.会員、3.指導者、4.施設・用具に関する回答を表2に示した。調査対象となったグループは、Bremenを除く10州の21グループである。

表2 調査結果

クラブ名称	実施状況			会 員												指導者 指導者数	施設・用具																		
	活動 回数 (/週)	活動 時間 (/回)	射数 (/回)	会員数	会員の年齢						経験年数				段・級		利用 施設	射距 離																	
				(女性)	19-20	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100	0-2	3-5	6-10	11-15	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100	1級	初段					
Budo-Club	1	2.5																														B	A		
S.V.O	1	2.5	20-30	9	3	1	1	5	1	1	0			8	0	1	0	0	4	1	1											B	7	A	
TSV弓道	1	4	30	20	8	0	3	4	5	5	2			6	6	8	0	0	18	2	2										D	5	A		
Isar-Dojo	2	2	40																													B&C	5	A&B	
Kyudo-Club Berlin	2	3	40	23	7	0	10	8	0	4	1			5	12	4	1	0	22	1	1											B	3	A&B	
Kyudo-Dojo Berlin	3	2~4	40-80	22	4	1	1	6	10	4	0			10	4	7	1	0	16	6	3											B	6	A	
飛雲館(Alster Dojo)	4	2~3	30-40	75	13	1	7	26	23	6	2			45	16	7	5	2	65	10	5										A	3	A		
Wiedbach-schule	3	2~3																																	
	4	1.5~2																																	
Leine-Dojo	1	2	40	23	5	3	10	7	2	0	1			17	1	4	1	0	22	1	3											B	9	A	
Silbersee-Dojo	1	1.5		9															9	0	1												A		
Delme Kyudy Dojo	4	1.5~2		15	4	2													15	0	3											B	A		
Innerste Dojo	3	2~2.5	40	19	6	2	8	8	0	1	0			13	4	2	0	0	18	1	2											B	5	A	
Judo-Club Achtermaer	1	3		18															16	2	1											B	A		
KraftSportverein	2	2		5	1														5		1											B	A		
K.B	2	2~3.5		11	2														10	1	2											B	A		
	1	3																															B&C	A	
	2	2																																	
Akatsuki	2	2~3	20-40	12	4									4	5	3	0	0	11	0	1											A&B	4	A&B	
Lubecker Judo-Club	1	2																															B	4	A
Budo-Zentrum	2	1.5~2	20																																

利用施設 A：専用弓道場 B：体育館 C：屋外 D：その他  
射距離 A：正規の距離(28m) B：短距離

## 1. 実施状況

1週間の練習回数は1～4回で、1回または2回と回答したグループが多く、それを合わせると7割以上となる。練習回数の平均は、2.05回であった。

1回の練習時間は、1.5～4時間で、曜日や練習時間帯により長短のあるグループが多かった。練習時間の平均は2.5時間であった。

1回での射数は20～80射で、使用施設による制約を受けている場合が多かった。1回の練習における平均の射数は37射であった。

## 2. 会 員

ドイツ全域での会員数は450人であった。これは、全ヨーロッパにおける弓道実施者の40.8%を占めるものである。本調査の対象となった1グループの会員数は5～75人で、平均では20.1人である。また、会員に占める女性数は1～13人で、平均では5.2人であった。会員に占める女性の割合は25.8%で、ほぼ4人に一人の割合となっていた。

会員の年齢構成は、19歳以下5.6%、20歳代22.6%、30歳代36.2%、40歳代20.3%、50歳代11.9%、60歳以上3.4%となっており、20歳代～40歳代の会員が多いことがわかる。

経験年数は、2年以下が53.6%と半数以上を占め、5年以下が23.8%、10年以下が17.8%であり、9割以上が経験年数10年以下であった。

段・級位については、9割以上が1級以下で有段者の比率が非常に低いことがわかった。

## 3. 指 導 者

各グループで指導的役割を果たす者の人数は、1人～5人でグループの会員数との関連が深いようであった。また、指導者は各グループの代表者を兼ねている場合が多かった。

各グループの指導的立場の者は、ドイツスポーツ協会（DSB: Deutscher Sports Bund）公認の指導者資格を取得することが義務付けられていた。公認指導者資格にはBundes Trainer, A Trainer, B Trainer, Übungsleiterの4種類があり、Bundes Trainerは国際的指導者、A Trainerは国内全域の指導者、B Trainerは州内での指導者、Übungsleiterは地域での指導者と分類できる。指導的役割の者が取得を義務付けられているのはÜbungsleiter資格であり、この資格を得るにはDSBによるスポーツ全般についての講習（地域により異なるが原則として60時間）と、各種目別団体による種目別講習（実技を含めて60時間）を受講し、両講習の最終テストに合格することが要求されている。合格者にはDSBにより資格が交付され、有資格者が所属するグループにはDSBが管轄する様々な施設が非常に有利に使用できるなどの特典が与えられている。

## 4. 施設、用具

練習で利用する施設はほとんどが学校や地域のスポーツセンターの体育館であった。一般に開放されている弓道専用道場は全ドイツで2か所のみであった。その内の一つは個人所有の道場であった。

体育館などの広さの都合で正規の距離（射距離28m）よりも短い距離での練習が多いと予想していたが、そのようなグループは2つだけであった。

的数は施設の横幅に制約され、1的当たりの会員数は練習量に影響を及ぼすものである。的数は3的～9的で、平均は5.6的であった。1的当たりの会員数は2.3人となっていた。

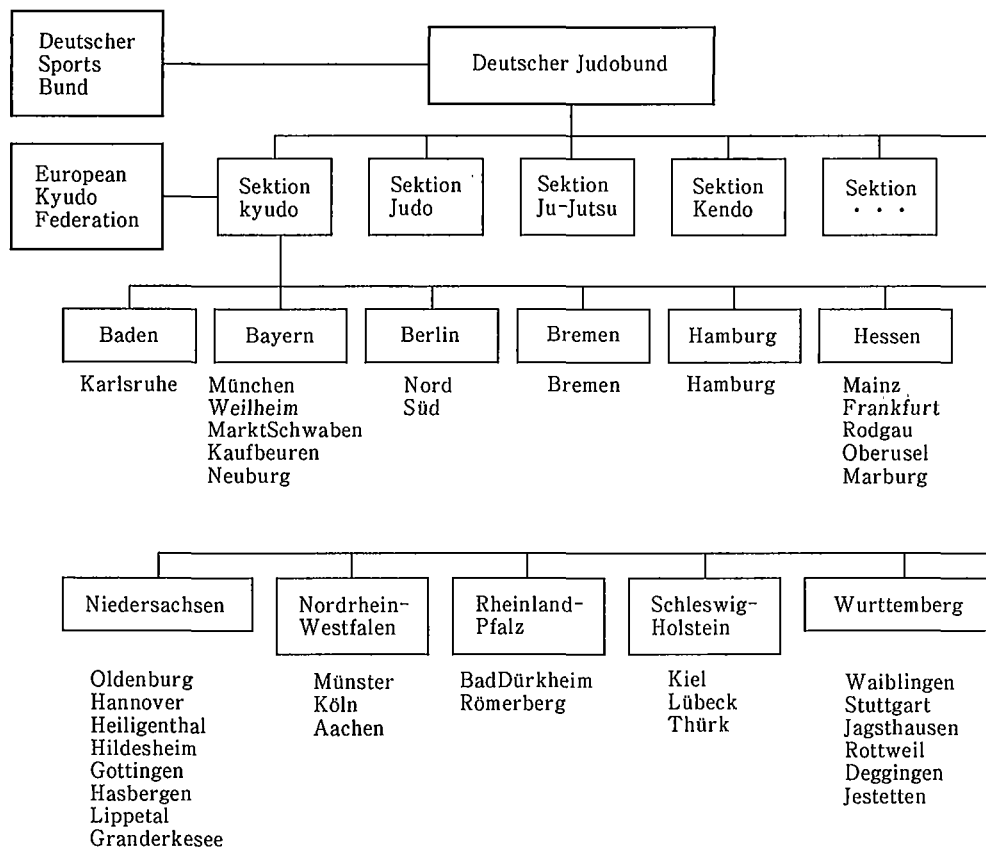


図2 ドイツ弓道連盟組織図  
(各州に所属する弓道グループの地名を示した。)

## 5. クラブ組織

ドイツ弓道連盟のクラブ組織を図2に示した。ドイツ全域では37の弓道グループ（正式に連盟に加入しているのは32グループ）があり、旧西ドイツの11州すべてに一つ以上の弓道グループがその活動を行なっている。各グループは所属州などのスポーツ協会に所属し、それと平行してドイツ弓道連盟に所属している。ドイツ弓道連盟はドイツ武道連盟（DJB: Deutscher Judo Bund）の1セクションであり、さらにDJBはDSBに所属する形をとっている。

ドイツ弓道連盟の役職名などは表3に示した。会長、副会長、会計のほか指導者資格の講習会を担当するトレーナー育成担当者や、地域別の担当者などが規約で決められている。また、年間の行事も組織的に行なわれており、その詳細は表4に示した。

## 6. 日本弓道界への要望

調査した全グループに共通していたのは良い指導者をより多く派遣して欲しいということであった。全日本弓道連盟からの公式な海外活動は1年に1週間以下の全ヨーロッパを対象としたセミナーのみであり、この回数・量を増やして欲しいというものも数件見られた。

また、弓道に関する書物の翻訳や、視覚教材的なものなどを望むものも多かった。

加 賀 勝

表 3. ドイツ弓道連盟役職等

役 職 名	氏 名 等
DJB-Sektion KYUDO DJB=Deutscher Judo-Bund e.V. ドイツ柔道（武道）連盟弓道支部 Bundesvorsitzender 連盟会長	Feliks F. Hoff
Stellvertreter 副会長	Dr. Christian Meyer
Kassenwart 会計	Sorin Jurma
Bundessachbearbeiter Öffentlichkeitsarbeit 公開連盟担当者	Günter Isleib
Bundestrainer 連盟公認国際指導者	Prof. Genshiro Inagaki
DJB-Geschäftsstelle DJB事務所	Lessingstr.12-postfach 1749-6500 Mainz
Bundesgruppe Kyudo im DDK DDK=Deutsches Dan-Kollegium e.V im DJB ドイツ有段者会弓道グループ Vorsitzender 会長	Dr. Roland Pohl
Stellvetr. Vorsitzende 副会長	Helgard Rome'
Technische Kommission u. Heki-Studienkreis 技術指導委員，日置研究委員	Dr. Manfred Speidel
Sachbearbeiter Übungsleiterausbildung トレーナー育成担当者	Cornelia Brandl-Hoff
Landessachbearbeiter KYUDO 地域（州）担当者	
Baden バーデン	Dr. Roland Pohl
Bayern バイエルン	Kurt Böhm
Berlin ベルリン	Thomas Baer
Bremen ブレーメン	Jürgen Linnerberger
Hamburg ハンブルク	Sven Zimmermann
Hessen ヘッセン	Jonannes Ibel
Niedersachsen ニーデルザクセン	Hans Hasselmann
Nordrhein-Westfalen ノルトラインヴェストファーレン	Günter Ismer
Rheinland-Pfalz ラインラントプファルツ	Fritz Eicher
Schleswig-Holstein シュレーズヴィヒホルシュタイン	Günter Isleib
Württemberg ヴェルテンベルク	Klaus Hoffmann

ドイツにおける弓道の実態調査

表4 ドイツ弓道連盟年間行事計画 (1990年)

	日 程	開催場所など
講習会		
1)	90.2.17-18	Bremen (全国講習会)
2)	90.3.10-11	Rottweil (全国講習会)
3)	90.4.13-16	Hamburg (全国講習会, 指導者講習会)
4)	90.4.28-29	Germaringen (全国講習会)
5)	90.5.12-13	Kiel (地域講習会)
6)	90.5.25-27	Munchen (地域講習会)
7)	90.6.2-4	Berlin (全国講習会, 指導者講習会)
8)	90.8.13-17	Stuttgart (稲垣先生講習会, 初段以上)
9)	90.8.18-19	Rottweil (稲垣先生講習会, 3段以上)
10)	90.10.6-7	Frankfurt (地域講習会)
11)	90.11.10-11	Koln (全国講習会)
12)	90.11.24-25	Bremen (全国講習会, 指導者講習会)
13)	90.12.8-9	Berlin (全国講習会)
14)	90.12.26-30	Hamburg (全国講習会, 指導者講習会)
試合		
15)	90.5.5-6	Weilheim (第13回個人選手権試合)
16)	90.9.15-16	Berlin (第13回団体選手権試合北地区予選)
17)	90.9.15-16	Koln (第13回団体選手権試合西地区予選)
18)	90.9.22-23	Rottweil (第13回団体選手権試合南地区予選)
19)	90.10.13-14	Rottweil (第13回個人選手権試合決勝)
20)	90.11.11	Koln (第4回シニア選手権試合決勝)
EKFセミナー		
Aセミナー	90.7.22-26	Annecy (フランス, 全日本弓道連盟海外セミナー)
Bセミナー	90.7.27-29	Annecy (フランス, 全日本弓道連盟海外セミナー)

7. 発展上の問題点

問題点としてもっとも多かったのは、指導者に関するものであった。どのグループも指導的役割を果たす者の質的・量的不十分さを痛感しているようであった。

指導者の問題と共に、弓道に対する情報が入手しにくいために、弓道が持つ面白みを伝えることが難しく、離れていく会員が多いことを問題点としてあげる者もあった。

また、施設や用具に対する問題点も大きいようで、十分な施設がないことや、用具の入手が容易でないこと、関税により用具価格が高くなることなどがその主なものであった。

考 察

今回の調査により、西ドイツの弓道組織及び実施状況などの概観をつかむことが出来た。武道の一つとしての弓道がドイツで実施されるようになってすでに20年を経過している。日本からの指導者を含めた個人的努力によって発展してきた弓道は、現在では国内すべての州で実施されるに至っている。

もちろんその活動は十分であるとはいえない面を含んだものであると考えられるが、ドイツで弓道が真剣に取り組まれ発展して行くうえで避けられない、しかも一朝一夕には解決できない問題に直面していると言える。ここでは、調査した項目間の関連性や活動を阻害する問題点などについて考察することとする。

実施状況は、日本に比べて十分なものとはいえないグループが多かった。特に1週間の活動回数が少なく、これは利用施設の制約を受けている場合が多かった。屋外での練習を行なっているグループも見られたが、定期的に練習するにはどうしても屋内の施設が必要となる。施設による活動の制約を軽減する方策の一つとして、指導者はDSB（スポーツ協会）の公認する資格を有することが義務付けられている。利用施設のほとんどが学校や地域の体育館であるが、これはDSBの管轄となっており、公認資格を持つことで優先的に利用が可能となるのである。

会員数は指導者数に制約を受けるため、経験年数が長く技術的レベルの高い指導者が多くいるグループには会員も多い傾向となっていた。日本弓道界への要望・発展上の問題点ともに、指導者に関するものがドイツにおける弓道のもっとも大きな問題といえるようである。指導が行き届かないために、新入会員が弓道への興味をなくしてしまうような例も多かった。日本の指導方法や練習方法を表面的に模倣することが必ずしも良いとは考えられないが、指導者の資質を高めるためには、今後も日本からの援助が必要であると考えられる。

国際化が叫ばれて久しい世論の中、しかも当事国からの強い要望があり、さらに発祥国としての責任を考えた場合、日本の弓道界、特に全日本弓道連盟が果たさなければならない役割は明確である。しかし、現在のところその組織的対応はとても十分ではないと考えられる。早急に、継続的対応がなされなければならない時期であると言えるのではないだろうか。

(平成3年4月15日受理)